所信表明

二〇二一年度学園振興委員長所信表明用紙

学園振興委員長
文学部　二回生
吉田　龍太

この度学園振興委員長に立候補いたしました文学部２回生の吉田龍太です。学園振興委員長に立候補するに際して方向性とそれに伴う施策について述べていきたいと思います。

【方向性】

〈理解と再生成〉

我々はどこまで学友会についての情報を持ち合わせているでしょうか。これまでの全学協議会では何を取り決めてきたのでしょうか？各学部自治会の業務は今継承されているものだけだったのでしょうか？何故現在のような組織構造をしているのでしょうか？そもそも自治とは？要求実現運動とは何でしょうか？多くの中央パートにおける情報継承は、自らの役職の前任者からの引き継ぎや個別の知り合い同士の情報交換が主だと思います。私自身もこれまでは基本的に前任者からの直接的な引き継ぎやそれ以前の2、3年程度の活動記録が保存されているグーグルドライブ等の電子データに限られていました。

しかしながら今年度、学園振興委員として活動していましたが、様々な保管資料を見たところ我々がまだ知らない、ないしは「聞いたことはあるけど詳しくは知らない」であろうことが記載されている多くの資料が発見されました。膨大な量に圧倒される一方で、昨今の学友会の課題に対して大小問わず対策を打ち出そうとする際、ここにある資料はきちんと確認されていたのかと思いました。

先程複数の問いかけを皆様に投げかけましたが、学友会に残されている保管資料を前に私は「学友会を理解している」とは言えない事を悟ると同時に、これ

だけの情報を学ぶことでより「理解」へと進むことを感じます。皆さまはどうでしょうか？何十箱も積まれたダンボールに入った資料を目の前に「学友会を理解している」と言えるでしょうか？何十年と続く学友会のうち、直接引き継ぎ作業で継承された2、3年だけでは本当の理解には及ばないと考えざるを得ません。

ここで求められる「理解」について。かつて欧州の思想家に資本主義社会を以下のように分析した人がいました。彼によると資本主義社会はキリスト教に根付いた生活の中で『『救済』を求めるために神から召命として職業を授けられ、それを『手段』として金を稼ぎ、さらに稼いだお金は神からの贈り物であるから投資して富を増加させた『結果』」が存在しているとしました。しかし時代が経つにつれ信仰に拠った生活のうち、「手段(金稼ぎ)」とその「結果(富の増加)」のみが残ってしまい、生活に根付いていた宗教色（＝宗教的核心）が無くなった形骸化した形が資本主義社会でいるとしました。ここに見られるのは形としての社会と、そこに介在した人の考えの本質を分析した理解と言えると私は思います。私はこのような理解を学友会でも今後行うべきであると思います。学友会とは何なのか？各パートの活動は何なのか？今ある状態は何が由縁なのか、何が抜け落ちて又は何が加わって今に至るのか、何が考えられて何が行われてきたのか、様々な問いに対してその時々に作られた「形」と、そこに内在したであろう「考え」の本質を見抜く「理解」を行い、学友会各パートの活動に際してこれからの学友会活動を見つめ直すことが必要だと考えます。

次に「理解」したものを「再生成」へと繋げます。我々が知っている2、3年の学友会活動までにどれだけの積み上がりがあったか、それを知り「なぜその業務があるのか」や「学友会とは何なのか」、「要求実現運動とは」など今我々が行っていることを見つめ直し、各パートや学友会全体で「これから何を行っていくべきなのか」という点に繋げることができるでしょう。新型コロナウイルス感染症による大学生活は変化への節目とも言えると考えます。この「再生成」の実行自体は各パートへと委ねることにはなりますが、その礎を築く必要があります。「理解」をし、今の学友会に必要なこと、逆に不要であるかもしれないもの、力を入れるべきこと等々を考えて「これからの学友会」へと繋げること(＝再生成)を行うための施策を以下に示したいと思います。

【施策】

上記方針を踏まえ、来年度の学園振興委員会では立命館大学学友会書庫(仮称)を作りたいと考えています。今年度数多の資料が見つかったことは既に記した通りですが、現状では各資料の内容把握すらままなりません。「理解」と「再生成」のためには各資料の整理をして保管と閲覧の準備を行う必要があり、各パー

トが必要に応じて過去を遡りパートごとの施策へと転じることができる環境作りの手助けとなれば良いと考えております。そしてこれは来年度一年だけでなくそれ以降も利用できる形にしたいと考えています。単年度意思決定であるため活かすも無くすもそれは各年度次第ではありますが、これからも続く学友会活動において何か必要が生じた時にいつでも学友会の軌跡を辿ることができる持続性のあるものにしておきたいと考えている所存です。書庫の設立及び利用については今年度の活動状況を引き継ぎ、また改善を来年度学園振興委員会で議論し考えつつ設立を行う予定です。

【最後に】

全学協議会についての考えを述べて締めくくりたいと思います。R2030 ビジョンを念頭に大学との協議に臨む所存ではありますが、「新たな挑戦」についてこの新型コロナウイルス感染症の影響が続く中でどのように現状を踏まえて2030 年に向かうか、現状と展望をしっかりと精査する必要があると考えます。その上で全学アンケートや過去の協議会、学友会外の考えていることを鑑みつつ政策立案を行い、交渉を行っていきたいと考えています。

投票日　一月七日

立命館大学学友会中央常任委員会

同選挙管理委員会